

まったく、変わったといえばこいつが筆頭だろう。

ジャングルの中、早足で前を歩いていく003の、肩先で跳ねるように揺れる亜麻色の髪を見て002は思っ、少なくとも自分が出会った頃の彼女だったら、あんなことはしなかっただろうに。

さつき009にこつぴどく叱られて003はさすがにこたえているらしい。固く口を引き結んで一刻も早く目的地へたどり着こうと必死のようだ。

009も先頭を小走りに行き、後ろには気を配っていないかのように前だけ見て進んでいる。

一番後ろを歩く002には、前を歩く2人の間の空気が重くて仕方が無い。

002は歩きながら、どうしたものかとそれだけ考えていた。本来の目的よりも目の前の問題を先に解決するほうに気が行ってしまっ。

何かフォローの言葉をかけたほうがいいのか、002はそう迷いながらも、この2人のことだからと余計な口をはさむのはやめて黙っていた。

小一時間もジャングルを進んだらうか。ふと009が立ち止まって前方と上空を見た。003が察して身を隠

しながら敵の様子をサーチし、通信で状況を報告してき

た。  
(あつたわ、例の車。ターゲットは北へあと50m行ったところにある、工事現場の資材置き場の前に止まっている。人質はその地下、本当の彼らの基地にいるわ。ちゃんと意識もあるし、無事よ)

(警備はどうだ?)

(車の周りには2人だけ。あとは、周辺に潜んでいる全部で、20人)

(了解。と、するとちよつとやっかいだな。どうする009?)

(そうだな。もうすぐジャングルを抜ける。見つからないようにしないと)

(また強行突破するか?)

(いや、それは難しいだろう)

009がちらりと002を見る。

(さつきだつてかなり危ない橋を渡ってしまったんだから、これ以上は危険だ。3人とも無傷じゃないだろう)

(俺なら大丈夫だ、それよりお前、本当に大丈夫か?)

(大丈夫だ。だが無用な危険は避けよう)

009が即答し、003は黙つてうつむいている。

(皆へは連絡済だ。相手を攪乱させるなら、全員そろつてからのほうがいいだろう)

(揃つまでにあとどれくらいかかりそうだ?)

(全員あと5分以内にここへ到着できそう)

(それならば待とう)

敵に気取られることは無いとは思いつながら、通信を切つた。仲間からの連絡を待つ間、それぞれ口を閉ざしてジャングルに身を潜め、敵の様子をうかがう。

003は集中したときの無表情にも見える顔で、敵の動きを漏らさずサーチし始めた。

そんな彼女を見ていない振りをしながらも、009はちらつと見て、一瞬辛そうな顔をする。

002は、2人のそんな様子を見て、見なかった振りをする。

\*

ギルモア博士の知人から、某国の大臣が誘拐されたという切迫した知らせが入ったのは3日前。

そのことを国内で公にすることはできない、どうにか秘密裏に解決する手助けをしてもらえないか。そういう依頼内容だった。

その知らせを聞いて、博士の顔色は見る見る変わった。聞けば今回の依頼者は、博士がBGから抜け出すにあたって助力を求めた人物のひとりだったのだという。

恩のある人物の一大事に、どうにか手を貸せないかと自分が飛び出していきそうな博士を皆で押さえた。BG脱出時に力を貸してくれた人物なら、自分達全員にとつても恩人だ、そう言つて全員で出発した。

誘拐犯に気取られないよう入国し、入手した情報を元に監禁場所と思われるところを突き止めた。

あとは、人質の安全をはかりつつ確実に救出すること。しかし、それがまた難問だらけだった。

大臣を誘拐した組織は、当然そう簡単に人質を解放するはずもなく、向こうの警備はなかなか厳重だった。

こちら側にしても自分達がサイボーグであることを公にはできない。特殊訓練を受けた集団、という触れ込みでここへ呼ばれたということになっていたのだ。この国の軍や警察と一緒に動く場合も多く、メンバーの能力によつては使えない場合も多かった。

人質開放と引き換えの条件として要求されたことも容易に飲みこめる類のことではなく、誘拐犯と政府との水面下での交渉は平行線をたどるばかり。時間はかりが経っていく。

ギルモア博士と知人の憔悴は傍目で見ていて気の毒なほどだった。